



きたはし・せつお

1959年、神奈川県藤沢市生まれ。國學院大学経済学部卒業。私立高校の社会科教師を経て、「栄湯」三代目店主に。92年、全面改装し「栄湯湘南館」としてリスタート。藤沢浴場組合長、湘南浴場組合連合会会長、神奈川県公衆浴場業生活衛生同業組合理事を歴任。2男4女の父親で、小中学校のPTA会長、おやじの会会長も経験。著書に「風呂屋が地域を再生する 目指せ！ 銭湯のマイスター」（草降社）がある。



インタビュー

銭湯が地域を再生する

公衆浴場
「栄湯湘南館」店主

北橋節男

銭湯は、地域の社交場

数の銭湯があるのでしょうか？

編集部 神奈川県藤沢市にある「栄湯湘南館」は、昔ながらのまちの銭湯です。小学生の入浴体験や銭湯寄席を企画するなど、銭湯をコミュニケーションの場として、地域とつながる活動を展開されています。今回は、そうした様々なとりくみについてお話を伺いたいと思います。

家庭に風呂があるのが当たり前になっている現在、銭湯は減少傾向にあります。今、全国にどれくらい

北橋 全国に2000〜3000軒はあるといわれています。東京都の銭湯組合で700軒くらい。神奈川県には200軒くらいです。昭和の頃に公衆浴場の人気はピークを迎え、平成になってからは衰える一方です。最近は人と人との関係が希薄になり、地域のつながりも薄くなっています。こうした時代だからでしょうか、「銭湯がないと困る」「銭湯が違って」とないでは地域の雰囲気

うね」という声が寄せられています。銭湯というのは、体を洗うだけでなく、裸のつきあいができるコミュニケーションの場でもあります。地域の情報もいち早く入ってきますし、高齢者の知恵や経験を教わるなど、考え方や世代が違う人たちが気軽にかかわれる場所です。親子でゆっくり湯船につかれれば、家族のつながりも深まります。

編集部 確かに銭湯はコミュニケーションの場、地域の社交場でもあります。それがなくなっているというのは、今の日本の社会を反映しているようにも思います。



北橋 お風呂屋さんが減ったことで、お風呂の入り方が変わってきました。もちろん小学校では教えてくれませんが、最近はシャワー中心で、湯船につかることが少ないようです。脱いだ服をたたむこともしませんが、銭湯では、隣の人にお湯をかけないように注意するとか、石けんやシャンプーも泡を残さないように使うとか、お風呂に入る時のルールがあります。そういうことを今の若い人は教えられていないから、わからない。それがまた面倒だ、煩わしいとなつて、銭湯からどんどん足が遠のく…。私たちお風呂屋さんはお風呂の入り方を覚えてもらうことから始めなければいけない。そうして、お風呂を楽しんでもらえる次の世代をつくらなくと！と思っています。

いつもにぎやか！ 小学生の入浴体験

編集部 栄湯湘南館では、小学生の入浴体験をおこなっています。これはいつ頃から始まったのですか？

北橋 長女が小学校4〜5年生の頃です。十数年前ですね。学校の

授業で、自分の親の仕事をみんなに紹介するというのがありました。先生が、「北橋さんの家は、お風呂屋さんなんですよ。説明するのもなかなか難しいから、みんなでお風呂に行っちゃおうか」と提案したのがきっかけです。私としては、子どもたちが銭湯に来てくれるのは、すごくうれしい。子どもたちに入浴マナーを教えますから、ぜひ実現させましょうと、校長先生にもかけ合せてスタートしました。当初は娘のクラスだけで入浴体験を始めたのですが、やがて学年単位で子どもたちが来るようになりました。その後、生活科という授業ができて、小学校低学年を対象にやってほしいということになり、今では小学校1・2年生の全クラス、80〜90人ほどの子どもたちが入浴体験にやってきました。

体験前の準備として事前に学校を訪問して、全国浴場組合がつくったお風呂屋さんのマナーを説明したリーフレットを読みあわせています。タオルの絞り方の実演指導などもやっています。

編集部 子どもたちに銭湯を実際に体験してもらい、お風呂の入り方を

教えるというのは、教室ではできないこと。まさに体験型の授業ですね。

北橋 田植えや川遊びを体験するように、入浴体験をしてもらえようというので、各家庭にあらかじめプリントを配って、親御さんにも体験授業の内容を説明。子どもたちにもタオルを持たせ、お風呂代を財布に入れて参加してもらっています。子どもたちは番台の人に「こんにちは」とあいさつをして、ちゃんとお客さんとしてお風呂に入ります。「脱いだ服が自分のものだ」とわかるように、



入浴体験した子どもたちからのメッセージがたくさん！

まとめておきなさいね」と言うのですが、毎回必ず忘れ物が出ます(笑)。
浴場の中でも、「体を洗ってから湯船に入りましょう」「お風呂に飛び込んではいけませんよ」「タオルは湯船に入れちゃダメですよ」と、ひとつずつ教えています。お風呂から出たら、それぞれが好きな飲み物を買って飲むのも楽しみのひとつ。子どもたちが「気持ちよかった!」と言ってくれるのが一番うれしいです。

コミュニケーションが人間力を育む

編集部 子どもたちの人間力を育むために、地域の銭湯が担う役割は何

でしょうか？

北橋 学校では普段から「あいさつをしましょう」と指導されています。藤沢市の教育委員会でも、おはようボランティアといって、登下校する子どもたちに「おはよう」「おかえり」とあいさつや声かけをする見守り活動をすすめています。子どもたちが「こんにちは」「ありがとう」という言葉で地域とつながることは大切だと思っています。いまや子どもたちの会話といえば、携帯電話のメールが中心です。コンビニに買い物に行っても、お店の人としゃべることは少ないですからね。

編集部 確かにコンビニは便利ですが、わざわざ「こんにちは、これをください」とは言いませんから。人とコミュニケーションをとらなくても買い物ができると思います。

北橋 昔ながらの魚屋や八百屋、駄菓子屋を知らない子どもたちが多いです。大事なのは会話をすること、目の前の人としゃべることです。自分からすすんで「こんにちは」「ありがとう」ということが大切

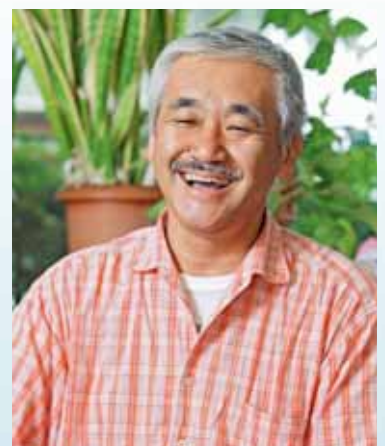
です。こういう言葉のキャッチボールが人間力、生きる力を育むんだと思います。銭湯は、そういうコミュニケーションができる場所。ここに銭湯としてできることがあると思っています。

編集部 地域の中で生きる力をつける。お風呂屋さんには、子どもたちの生きる力を育む場所になる。そのひとつの試みが、小学生の入浴体験なのです。

銭湯で文化を楽しむ

編集部 栄湯湘南館では毎春、真打ちを招いて銭湯寄席を開催しています。なぜ落語をやるようになったのですか？

北橋 落語も銭湯も、日本の伝統文化です。いっしょに何か面白いことができたらいいなと思っています。銭湯の開店記念イベントを考えている時に、父の知り合いの息子がプロの落語家だという話を聞きました。それが三遊亭遊吉師匠(ゆうきち)だったんです。「風呂屋で落語をやってくれませんか」とお願いしたところ、割安な



お礼でお弟子さんと出演していただけることになりました。それが現在まで続いているんです。

銭湯寄席は年に1回。定休日を利用して、脱衣所に座布団とイスを並べて開いています。料金は、銭湯をもじって1010円。高座と客席が近いので、落語家とお客さんとのかけ合いも面白いんです。「また来年もやってね」という声にこたえて、12年間続いています。直近の寄席は、これまでで一番多い90人のお客さんが集まりました。

編集部 落語以外にも、いろいろな企画ができそうですね。例えば、銭湯でライブ演奏というのも楽しいかもしれません。

北橋 現在、栄湯湘南館の2階でそ



ろばん塾をやっています。以前はカラオケルームだったので室内は防音になっていきます。地域の高齢者の方が民謡の練習に使いたいとか、カラオケ交流会をやりたいという声もあるんです。この空間をそんなふうに使ってもらえればうれしいですね。地域のコミュニケーションの場として、また違う集まりができますから。

編集部 銭湯がまちにあることで、人のつながりを感じられることはありますか？

北橋 銭湯は午後3時から開店しますが、2時くらいからもう常連さんが並んでいます。「今日はあの人来ないね。病気なのかな」といった会話が交わされ、お客さん同士のゆるやかな見守りにもなっています。銭湯が地域のみなさんの居場所、基地になってくれるといいなと思います。

「おまごの会」で地域プロジェクト！

編集部 北橋さんは以前、高校で社会科の教師をされていたそうですね。

北橋 はい。父が元気なうちは、教員を続けるつもりでしたが、私が25歳の時に父が病気で亡くなり、風呂屋を継ぐことになりました。いつか継ごうと思っていたことが、少し早まったわけです。

編集部 それ以来北橋さんは、小中学校のPTA会長を務めたり、「おまごの会」という父兄会を立ち上げるなど、積極的に地域活動にも取り組まれています。

北橋 PTAに参加して、学校や子どものことを考える中で、私たち保護者も力を合わせて子どもたちを守らなければと思い、学校と話合っ、おまごの会をつくりました。地域の見まわり活動をはじめ、親子自

転車レース大会を開催したりバーベキューをやったり、学校やPTAの枠を超えた活動をおこなってきました。そこで個性的な親御さんたちと出合い、地域や親子について考えを深めていきました。それが結果的に、お父さんたちの居場所づくりにもなっていきました。働き盛りのお父さんは、地域の中で居場所が少ない。おまごの会は、そんなお父さんたちが地域デビューする第一歩になったわけです。

メンバーは40〜50代が中心。地域の中ではまだまだ若造です。でも、地域のためにできることを、共に力を合わせてやりましょうという思いが強いのです。人のつながりが学校から地域へどんどん広がっていく。それがすごく面白いから、今も続けているのだと思います。



編集部 地域のコミュニケーションの場として役割を果たしている銭湯。地域を再生するためにも、北橋さんにはぜひ銭湯を続けていていただきたいですね。今日はありがとうございました。

北橋節男さんの(サイン入り)著書&藤沢浴場組合の手ぬぐいをプレゼント!

『風呂屋が地域を再生する』

草隆社



藤沢浴場組合の手ぬぐい

セットで
3名様

本誌綴じ込みハガキにてご応募ください。

栄湯湘南館

住所：神奈川県藤沢市亀井野 1-10-13

電話：0466-81-2967

営業時間：15:00～23:00

定休日：毎週火曜日

交通アクセス：小田急江ノ島線「六会日大前駅」より徒歩1分